

第一回 対人援助学会 11月7日
15:10 から 16:40
立命館大学創思館 1F カンファランスルーム

シンポジウム2 「元気の出る『個別の教育・支援・移行』プラン」

企画 望月昭・朝野浩： 司会：望月昭（立命館大学）

話題提供者：

朝野 浩（立命館大学） 「個別包括支援プラン」はどのように活かすか
桑園英俊（桑の実工房） 学校・福祉・企業を結ぶプラットフォームの実現へ
居内 学（京都市） 京都市の継続的就労支援の試み

障害のある生徒（や成人）の継続的支援は、様々な地域セクターの連携によって始めて実現します。その連携のひとつの手段として、学校や福祉施設では現在「個別の教育（支援）プラン」等の名称を持つ「書類」を作成していますが、継続的支援のための情報システムとして十分に機能しているとは言い難い部分もあります。

「個別の教育（支援）プラン」とは、本来、個人のある時点での能力や不足を示す「通信簿」ではなく、それまでにどのような支援によって「できる」が実現してきたか、そして「何があれば」さらなる「できる」が可能なのかを示す、積極的なポートフォリオであるはずで

当シンポジウムでは、「個別の教育（支援）プラン」の作成と移行が、就学中も就労中も継続的に引き継がれ、当事者のキャリア・アップを支え続けるシステムとして機能していくための方法について、学校、福祉、行政の各セクターから、これまでの状況や現在行われている新しい試みについて話題提供をしてもらいます。

「個別の教育（支援）プラン」をセクター間の情報移行システムとして考えた場合、『障害』があるがゆえに、個人の情報を第三者が取り扱うことは果たして可能なのか」という、対人援助という作業において絶えず考慮すべき課題があります。言うまでもなく、ポートフォリオは当事者のものでありその使用も当事者にゆだねられるべきものです。このことを理念のみでなく、現実的な運用方法においても担保し、当事者も援助者も「元気が出る」、そうした実践方法について考えていきたいと思